



いつもお世話になっております。角川書店のオススメ新刊をご案内致します。

ぜひ著者インタビューや、書評、プレゼントコーナーでの紹介をご検討お願い申し上げます。

お問い合わせ等がございましたら、下記担当者までお願い申し上げます。

株式会社KADOKAWA 角川書店BC 第一編集局 パブリシティ担当:佐々木 愛(sasaki-a@kadokawa.jp)

〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19 TEL:03-3238-8555 FAX:03-3262-7646

作家生活25周年記念作品!

騙されるな、本物を掴め——

鉱物ビジネスを巡る命を懸けた駆け引き。

巨大国家インドの光と影に迫る超弩級エンターテインメント!



インドクリスタル

著：篠田節子

発売日：2014年12月22日 頁数：536頁 体裁：四六判上製 定価：本体1900円+税

——発売前から推薦コメント続々!——

高野秀行

氏 (ノンフィクション作家)

インドの土俗とグローバル経済が闇の奥で激突する、桁外れのアジア・ノワールだ!

垣根涼介

氏 (作家)

世界は常に善悪の二元論では収まらないことを、この小説は強く訴えかけてくる。

北上次郎

氏 (文芸評論家)

ヒロイン像が圧巻だ。ラストまで一気読みの傑作である。

古き因習と最先端ビジネスの狭間でうごめく巨大国家インドを、
綿密な取材と圧倒的筆力で描きだした
社会派エンタメ大作。構想十年、怒濤の1250枚!

【内容】

人工水晶の製造開発を行う山峡ドルジェ。

婿養子で社長の藤岡は、社運を賭かけて惑星探査機につける超高性能水晶振動子の開発に取り組んでいた。人工水晶の核となるマザークリスタルを買い付けに世界の辺境へたびたび出向いていた藤岡だが、今回の用途に適った水晶が、唯一インドの小村「クントゥーニ」から産出されたと知り、現地に向かい、偶然立ち寄った先住民族の村で運良く水晶を購入、実験にも成功する。

さらに大きな塊を求め、裏ルートで水晶の入手を企たくらんでいたところ、宿泊先で使用人兼売春婦として働く少女ロサに出会い、その抜きんでた知力に驚く。藤岡はロサを通訳兼案内人として村人との交渉に挑むが、商業倫理や契約概念のない部族相手のビジネスに悪戦苦闘しながら直面するのは、貧富の格差、男尊女卑、中央と地方の隔たり、資本と搾取の構造——まさに世界の縮図というべき過酷な現実だった。

そして採掘に関わる人々に次々と災いが起こり始める。果たしてこれは現地民の言う通り、森の神の祟りなのか? 知らず知らずのうちに、インドの闇の奥へと足を踏み入れてゆく藤岡だが——

※初出：「小説 野性時代」(角川書店) 2012年1月号から14年4月号(11年12月売り号~14年3月売り号)に掲載。



——篠田節子氏のインド取材記——

篠田氏は本作の執筆に際し、インドの南東部にあるオリッサ州を10日間ほど訪れ取材を行いました。その様子の一部をご覧ください。

(文=篠田節子/撮影=篠田節子・鈴木敦子「小説 野性時代」連載担当)



←タンディプール村の皆さんと

↓ドゥルガー・プージャー
ドゥルガー（戦いの女神）を祝う祭り



↓村の子たちの名前を教えてくださいました



市場には野菜がたくさん↓



【著者紹介】篠田節子（しのだ・せつこ）
1955年東京都生まれ。90年『絹の変容』で小説すばる新人賞を受賞しデビュー。97年『ゴサインタンー神の座ー』で山本周五郎賞、『女たちのジハード』で直木賞、2009年『仮想儀礼』で柴田錬三郎賞、11年『スターバト・マーテル』で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。著書に『夏の災厄』『第4の神話』『はぐれ猿は熱帯雨林の夢を見るか』『銀婚式』『ブラックボックス』『長女たち』など多数。